

『平家物語』『祇園精舎』（文法）

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。Aおこれる人も久しからず、ただ春の夜の夢の①ごとし。猛き者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。遠く異朝をBとぶらへば、秦の趙高、漢の王莽、梁の朱异、唐の禄山、これらはみな、旧主先皇の政にも従はず、樂しみをきはめ、諫めをも思ひ入れず、天下の乱れ②んことを悟らずして、民間のC愁ふるところを知ら③ざつしかば、久しからずして、亡じ④に⑤し者どもなり。近く本朝をうかがふに、承平の将門、天慶の純友、康和の義親、平治の信頼、これらはおこれる心も猛きことも、みなとりどりにこそあり⑥しかども、ま近くは、六波羅の入道前太政大臣平朝臣清盛公と申し⑦し人のありさま、伝へ承るこそ、心も言葉も及ば⑧れ⑨ね。

その先祖を尋ねれば、桓武天皇第五の皇子、一品式部卿葛原親王九代の後胤、讃岐守正盛が孫、刑部卿忠盛朝臣の嫡男なり。かの親王の御子、高視の王、無官無位にして失せたまひぬ。その御子、高望の王の時、初めて平の姓を賜つて、上総介になりたまひしより、たちまちに王氏を出でて人臣に連なる。その子鎮守府の將軍義茂、のちには国香と改む。国香より正盛に至るまで六代は、諸国の受領⑩たり⑪しかども、殿上の仙籍をばいまだ許さ⑫れず。

【解答欄】

問一

--	--

問二

B			C	
---	--	--	---	--

問三

⑩	⑦	④	①
⑪	⑧	⑤	②
⑫	⑨	⑥	③

『平家物語』『祇園精舎』（文法）

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。Aおこれる人も久しからず、ただ春の夜の夢の①ごとし。猛き者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。遠く異朝をBとぶらへば、秦の趙高、漢の王莽、梁の朱异、唐の禄山、これらはみな、旧主先皇の政にも従はず、樂しみをきはめ、諫めをも思ひ入れず、天下の乱れ②んことを悟らずして、民間のC愁ふるところを知ら③ざつしかば、久しからずして、亡じ④に⑤し者どもなり。近く本朝をうかがふに、承平の将門、天慶の純友、康和の義親、平治の信頼、これらはおこれる心も猛きことも、みなとりどりにこそあり⑥しかども、ま近くは、六波羅の入道前太政大臣平朝臣清盛公と申し⑦し人のありさま、伝へ承るこそ、心も言葉も及ば⑧れ⑨ね。

その先祖を尋ねれば、桓武天皇第五の皇子、一品式部卿葛原親王九代の後胤、讃岐守正盛が孫、刑部卿忠盛朝臣の嫡男なり。かの親王の御子、高視の王、無官無位にして失せたまひぬ。その御子、高望の王の時、初めて平の姓を賜つて、上総介になりたまひしより、たちまちに王氏を出でて人臣に連なる。その子鎮守府の將軍義茂、のちには国香と改む。国香より正盛に至るまで六代は、諸国の受領⑩たり⑪しかども、殿上の仙籍をばいまだ許さ⑫れず。

問一 傍線部Aから用言を二つ抜き出し、終止形に直して答えなさい。

問二 傍線部B・Cの用言の活用之行・種類と活用形を答えなさい。

問三 傍線部①～⑫の助動詞の文法的意味と活用形を答えなさい。

【解答欄】

問一

おこる	久し
-----	----

問二

B	ハ行四段活用	已然形	C	ハ行下二段活用	連体形
---	--------	-----	---	---------	-----

問三

⑩	断定	連用形	⑪	過去	已然形	⑫	受身	未然形
⑦	過去	連体形	⑧	可能	未然形	⑨	打消	已然形
④	完了	連用形	⑤	過去	連体形	⑥	過去	已然形
①	比況	終止形	②	婉曲	連体形	③	打消	連用形

※⑫…受験対策では、下に打消がある場合は、「可能」の意味となると説明されていますが、そうではない例もありますので気をつけてください。